

## アラブ地域研究のための基本文献

### 【事典・工具類】

大塚和夫他編『[イスラーム辞典](#)』岩波書店、2002年  
アラブ地域で支配的な宗教であるイスラームに関する必携書。

小杉泰・林佳世子・東長靖編『[イスラーム世界研究マニュアル](#)』名古屋大学出版会、2008年  
イスラーム世界の一角としてのアラブ諸国に関する研究はいかなるものがあるかを概観することができる。

### 【入門・概説書】

大塚和夫編『[暮らしがわかるアジア読本 アラブ](#)』河出書房新社、1998年  
アラブ地域を概観するのに適している。下の『56章』よりも人々の日常生活に関する記述が多い。

松本弘編『[現代アラブを知るための56章](#)』明石書店、2013年  
20以上あるアラブ諸国を一冊で網羅するというのはやや無理があるが、現在のアラブ地域を俯瞰することはできる。同じシリーズの各国版に下記がある。

私市正年編『[モロッコを知るための65章](#)』明石書店、2007年

私市正年編『[アルジェリアを知るための62章](#)』明石書店、2009年

黒木英充編『[シリア・レバノンを知るための64章](#)』明石書店、2013年

酒井啓子、吉岡明子、山尾大編『[現代イラクを知るための60章](#)』明石書店、2013年

鈴木恵美編『[現代エジプトを知るための60章](#)』明石書店、2012年

鷹木恵子編『[チュニジアを知るための60章](#)』明石書店、2010年

### 【アラブ地域通史】

フィリップ・K・ヒッティ著、岩永博訳『[アラブの歴史\(上・下\)](#)』講談社、1982～1983年  
アラブ地域地域の通史としては古典的な一冊。原著は1937年刊。

アルバート・ホーラーニー著、湯川武監訳『[アラブの人々の歴史](#)』第三書館、2003年  
これもアラブ地域の通史。こちらは宗教史についてもカバーしている。

### 【専論・研究書】

青山弘之・末近浩太著『[現代シリア・レバノンの政治構造](#)』岩波書店 2009年  
アラブ地域においても特に複雑な構造を示す、シリア、レバノン地域の政治について解明する。

臼杵陽著『[世界史の中のパレスチナ問題](#)』講談社、2013年  
パレスチナ問題を専門とする研究者が、その複雑な背景を分かりやすく解きほぐす。

酒井啓子著『[イラク戦争と占領](#)』岩波書店、2004年  
国際政治のひとつのコマとしてではなく、そこに生きる人々の視点からイラクの現実を解きほぐす。

長沢栄治著『[エジプトの自画像:ナイルの思想と地域研究](#)』東京大学東洋文化研究所、2013年  
★図書館所蔵分は、平凡社の刊行  
エジプト人がエジプト人というアイデンティティ構築の作業をどのように行ってきたか明らかにする。

西尾哲夫、堀内正樹、水野信男編、『[アラブの音文化](#)』スタイルノート、2010年  
コーランの朗誦を含め、音に関するアラブ固有の文化を多角的に論じる。

八木久美子著『[グローバル化とイスラム:エジプトの「俗人」説教師たち](#)』世界思想社、2011年  
グローバル化時代のエジプト社会においてイスラームを動かしている力学を解明する。

### 【イスラーム関連】

三田了一訳『[聖クルアーン:日垂対訳注解\(第二版\)](#)』日本ムスリム協会、1983年  
アラビア語との対訳。他にも日本語訳はあるが、論文などではこの訳を使うのが基本。

小杉泰著『[イスラームとは何か](#)』講談社、1994年  
宗教としてのイスラームについてのコンパクトにまとめられている。

井筒俊彦著『[イスラーム哲学の原像](#)』岩波書店、1980年  
世界的なイスラーム研究者であった井筒俊彦の数多くの著作のなかで比較的初心者にもわかりやすく書かれており、かつイスラーム哲学の神髄に触れることができる。

ライラ・アハメド著、林正雄他訳『[イスラームにおける女性とジェンダー](#)』法政大学出版会、2000年  
イスラームにおける女性、ジェンダーについて学ぶためにはこれを読んでおくことが必要。

### 【文学作品】

『[現代アラブ小説全集](#)』河出書房新社、1988～1989年  
全10巻からなる現代アラブ小説の代表的な作品の翻訳。

(2014年2月 八木久美子)